

令和5年度 授業改善推進プラン 理科

1 「大田区学習効果測定」結果の分析

○学年によって、目標値を上回る領域が異なる。

- ・4年生は、「磁石の性質」「電気の通り道」の問題が目標値に達していない。
- ・5年生は、「天気のようにすと気温」「物のあたためり方」の問題が目標値に達していない。
- ・6年生は、「ふりこのきまり」「電流のはたらき」の問題が目標値に達していない。

2 課題点

- ・実験の結果からの知識・技能の定着に課題がある。
- ・「粒子」「エネルギー」分野に課題がある。
- ・学習したことを復習したり、深めたりすることに課題がある。

3 授業改善策

①理科用語の定着を図る。

理科の道具や薬品などの名前を覚える必要がある。

- ・理科室授業の初めには、教室ビンゴなど、実験器具を楽しく覚える時間を設定する。
- ・問題解決学習の計画の段階で、実験器具の名前をノートに書く時間を設定する。
- ・一人一実験などの工夫をする。
- ・授業開始すぐ・授業終了前の5分くらいの時間で、基礎用語の復習の時間を設定する。

算数や国語は各単元を繰り返し学習する機会がある。しかし、生物単元以外は1年に1回学習しない。そのため、定着率が低いと考えられる。意図的にフィードバックする機会を設ける。

②予想が充実するような授業を計画する。

予想する段階で、児童が興味・関心をもって考えられるような発問を設定する。児童が自ら考え・調べられる問題提起をできるようにする。

③学年の系統性を考えて授業を行う。

他学年との繋がりを考えて授業を行っていく。ゴールをイメージすると、そこまでに身につけさせないといけない資質・能力がはっきりとしてくるので、単元を点で捉えるのではなく、線でイメージして授業を計画していく。

④日常生活と理科との関連付けを行う。

実験や観察後に日常生活とのつながりについても学ばせる。生活の中で、理科で学習したことが活用されている場面が多数存在する。その存在を知ることによって意欲・関心を高められると考えられる。